Ishinomaki KIZUNA Project
石巻復興きずな新聞

石巻復興きずな新聞舎

2018 年度 活動報告

2018.04.01～2019.03.31

＊＊＊＊＊＊＊

ご挨拶

＊＊＊＊＊＊＊

2011 年には約 7000 戸あった石巻市の仮設住宅は、2019 年 4 月現在、13 団地 71 戸まで減りました。今仮設住宅に残られている方々も、再建先が決まっている方がほとんどで、石巻市の仮設住宅は 2019 年９月にはすべて解消される見込みです。石巻復興きずな新聞舎は「最後のひとりが仮設住宅を出るまで」を目標に立ち上げた団体ですので、当初の目標が目前となり、無事に達成することができそうで、ほっとしています。この３年間、私たちの活動を支え続けてくださった皆様に、大変感謝しています。どうもありがとうございました。

しかし、この３年弱、復興公営住宅への支援を行なってきて感じるのは、「復興公営住宅にもたくさんの課題がある」ということです。石巻復興きずな新聞舎では、仮設住宅から復興公営住宅の移行期にあたる 2019 年度も活動を継続していきます。一年後、「きずな新聞がなくなっても、もう寂しくないよ。ご近所にたくさん友達ができたからね！」と言ってくれる住民さんが増えて、笑顔で活動を終えられることを目標に、一年間活動していきたいと思います。2019 度も引き続き、石巻復興きずな新聞舎の活動にご理解・ご協力・ご支援をいただけると幸いです。

石巻復興きずな新聞舎
代表　　岩元暁子

＊＊＊＊＊＊＊

活動報告

＊＊＊＊＊＊＊

【1】石巻復興きずな新聞の発行

＜実施した事業内容＞

市内各地域で活動する団体や専門家と協働し、医療・健康、地域づくり・街づくり、イベント情報等の記事を掲載。住民の自立や社会参画を促す紙面づくりを行う。

〇発行回数：11 回（月１回）
〇発行部数：石巻市内にて各号 5,000※～6,000 部＋仙台五橋地区にて 5,500 部
※仮設住宅の減少に伴い、発行部数も減少。
〇記事構成（カッコ内は回数）：
医療・健康(6)／心のケア(4)／地域包括ケア(4)／街なか(6)／防災・減災(4)／大川地区(6)／雄勝地区(5)／北上地区(6)／牡鹿地区(5)／イベント(14)／生活(3)／認知症予防(3)／復興状況＆読み物など(19)

＜成果および自己評価＞

新聞発行を通し、引きこもりがちな仮設住宅や復興公営住宅の住民の方々向けに情報発信を行うことで、住民の自立や社会参画を促進してきました。私たちは「メディアの使命は『世の中を変える』こと、

すなわち『（読者の）行動を変える』こと」だと考え、これまでも具体的なアクションに結びつくような情報発信を心掛けてきました。例えば、街づくりに関する住民向けワークショップのお知らせ記事を書くのでも、単に日時や場所、内容を記載するだけでなく、主催者の思いやそのワークショップに住民が参加する意義が読者に伝わるように工夫し、仮設住宅や復興公営住宅を一歩出て、足を運んでみたくなるような情報発信を心掛けてきました。

実際、平成 31 年 1 月に行った読者アンケートでは、「石巻復興きずな新聞に掲載された記事や広告を見て、お店やイベントに行ったり、サービスを利用したり、健康法やレシピを試したことがありますか？」という質問に対し、約４割が「よくある」「ときどきある」、約２割が「1～２度ある」と回答しました。情報発信による住民の自立促進、社会参画の機会創出、引きこもり防止に一定の効果があったと考えます。

また、河北新報の販売店である「河北仙販五橋支店」様が、私たちの新聞を高く評価してくださり、昨年度に引き続き、仙台市五橋地区において、私たちの新聞を折り込みチラシの帯にして無料配布してくだっています（5,500 部）。震災後、仙台市内には宮城県沿岸地域出身の方が増え、石巻の様子を知りたいという声が多いとのことです。同じ県内とはいえ、仙台と石巻とでは状況が復興状況も異なるため、仙台にお住まいの方々にも石巻のことを知っていただくことには意義深いと考えます。

＊＊＊

下記に平成 31 年 1 月実施の読者アンケートで寄せられた声を抜粋して掲載します。

●読者アンケートで寄せられた声●

◎お家にいることが多いので、新聞で情報を得られるので助かっています。目が悪く、小さな文字が読めないので、拡大版があるのがありがたいです。

◎私のもと住んでいた所、下釜地区なので自分達の住んでいた場所がどのように変わっていくのか心配でなりませんので、きずな新聞はかかさず読んでいます。

◎資金の面で大変でしょうが、がんばって発行を続けてください。

◎ただただ感謝の気持ちでおります。年を重ねるほどに故郷への思いは強くなるものだと感じます。皆さまの尽力により、人と人との絆や人の温かさ、やさしさを改めて実感します。大変なことと思いますが、続けて頂けたらありがたいです。

◎いつも素晴らしい新聞を制作して頂き、ありがとうございます。毎月楽しみに待っております。私自身、石巻に住んでいながらも石巻について知らない事が多く、今、石巻がどのように復興し、復興をしようとしているのか、きずな新聞を通して知ることができています。

◎これからもよろしく、話題を提供して下さい。

◎多方面に亘る記事が掲載されており（健康、紀行、地域の情報等）、記事執筆者の熱意あふれる文面に読み手として感謝しています。

◎毎月ご苦労様です、感謝申し上げます。石巻市民の行動、声など聞かせて頂き本当にありがとうございます。来月も楽しみにしています。

◎たくさんの方がいろんな形で関わってくれていると思える情報紙です。震災は大変だったし、年月が経っても辛いし苦しい事だらけだけど、1 人ではないと思える。自分以外も頑張っていると思える。それが生きる力になっています。いつもありがとう。これからもよろしくお願いします。まだまだ仮設生活ですので。

◎毎月のきずな新聞ありがとう。このまま続けて欲しいです。

◎ボランティア、支援者に感謝している。

◎皆さまの努力が伺えます。編集後記を読むのが楽しみです。これからもよろしくお願いします。

◎毎月色々な情報をのせて頂き、有りがとう御座います。私は昨年より一人暮らしをしているので、毎月のきずな新聞楽しみに待っています。これからもよろしく！

◎「北上の風」「牡鹿半島」を、特に感動に近い気持ちで読ませて頂いております。石巻に 70 年も住んでおりますが、移住の方々の真剣さには大変ありがたく頭の下がる思いです。ありがとうございます。

◎復興住宅へ毎号入れて頂き感謝しております。被災された方々の現在など書かれてあるので、励みになります。

◎いつも情報などありがとうございます。仮設に入居していた時は、玄関や部屋で色々な事を話してとても楽しい思い出があります。いい情報が載っていた時は調布市の実家に送ったりもしていました。これからも頑張ってできるだけ続けて頂ければ幸いです。

◎いつも身近に感じる内容で楽しみにしています。そして無料配布をして頂くことに心より感謝いたします。

◎今回（31 号）の「大切な人をなくした人のための権利条約」は何度読み返しても胸が詰まり、ただただ涙を流しております。勝手ながら、これからも読ませて頂けますように願っております。皆さま風邪などひかれませんように。

◎きずな新聞、毎号楽しみにしてます！あきさんの編集後記が特に好きで、TV のチャンネル戦は心の中がほくほくしました。出掛けるのも大好きで、イベント情報も必ずチェックして参考にさせて頂いております。

◎私は震災の後、原因不明ですが難病を患いました。今も自宅療養中です。人の集まる所、遠方に行く事ができないので、街の中や市内の町々、色々な所での活動などが新聞を読んで知ることができ、「皆さん頑張ってるなあ、私も頑張ろう」と毎回元気を頂いています。いつもありがたいと思っています。

◎二子復興住宅を終のすみかとして、7 ヵ月になろうとしていますが、きずな新聞でいつも勇気と励ましを頂いています。私達震災被害者を勇気づけられるコメントだったり、お言葉だったりがありがたいです。今月号では〝ボケずに 100 歳！〟のコーナーは私の様な老人にはよいコーナーでした。心強いです。

皆さんの大変さがよく分かります。これからも頑張ってください。

◎明日（2/11）月命日に当たり、今回（第 31 号）の「きずな新聞」はこれまでの中で一番心励まされ、読ませていただきました。震災ではありませんが、実姉を３年前に亡くし（震災関連死）、姉に代わり 92 歳の母の世話をしております。いつも部屋から下の集会所で「お茶っこ会」やら色々な集まりを拝見しながら皆様の心温かい行動にいつも頭が下がり、感謝しております。

◎仮設住宅から復興住宅に移ってからも、きずな新聞を届けていただいて、ありがたく感謝しております。

◎いつも細やかな記事を有難うございます。今月号の移住されたという遠藤さんのお話は興味深かったです。沢山の支援の方々へ心からの感謝を向けたいと思います。本当にありがとうございます。

◎石巻の様子がよくわかり嬉しい。あきさんのメッセージも楽しいし心に響くものがあります。がんばっていますね！

◎仮設に 7 年間、きずな新聞の想いは感謝しつつ見させてもらってます。私も 90 才過ぎ今でも心の支えになってます。本当にご苦労さんです。良かったらこちらに来たときは声かけてもらい、お茶っこでも一緒にして思い出話したいです。お待ちしております。

◎御苦労様です。医療・健康面に目を通します。

◎町内の老人会で利用させてもらってます。

◎すごくためになる事ばかりで勉強になります。

◎新聞ありがとう！お変わりなく毎日私たちのために新聞を制作してくれているのネ。本当にありがとう。私も仮設から移ってもう 10 ヶ月になります。これからも新聞をつずけて下さいネ。ボランティアのみなさんにもよろしくネ。また会える日を楽しみにしてます。これからも頑張ってください！

◎まだ復興の手があまり行き届いていない場所もあるので、少しづつでも再生していって、”まち”の復興につながってほしいと思います。きずな新聞も、そういった役割もあると思います。

◎これからもいろいろな企画、情報の連載を楽しみにしています。

◎長い間の支援活動ありがとうございます。慣れない仮設住宅、新しい復興住宅の中きずな新聞さんは楽しみで、届けて下さるボランティアさんとの交流が心を癒していただきました。これからも私達に寄り添った情報お願いいたします。

◎タメになる記事がたくさんあって、いつも楽しく読ませてもらっています！イベント情報などもあって、機会があったら参加してみたいなと思いました。地元ならではのよさが出ていると思うので、これからも頑張ってください！

【2】石巻復興きずな新聞の配布

＜実施した事業内容＞

スタッフやボランティアが直接訪問して新聞を配布する。手渡しで新聞を配布し、住民さんの声に耳を傾けることで、孤立を防ぐ見守り活動や心のケアを行う。

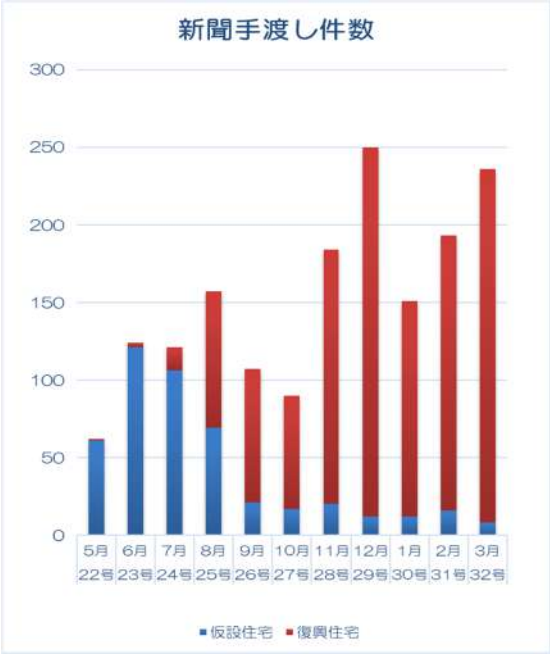
〇配布件数：

市内仮設住宅約 1,000～2,000 世帯、復興住宅約 3,500～4,000 世帯

〇手渡し件数：

・５月 62 件（仮設 61、復興 1）
・６月 124 件（仮設 121、復興 3）
・７月 121 件（仮設 106、復興 15）
・８月 157 件（仮設 69、復興 88）
・９月 107 件（仮設 21、復興 86）
・10 月 90 件（仮設 17、復興 73）
・11 月 184 件（仮設 164、復興 20）
・12 月 250 件（仮設 238、復興 12）
・１月 151 件（仮設 139、復興 12）
・２月 193 件（仮設 139、復興 16）
・３月 236 件（仮設 228、復興 8）

合計（のべ）1,675 件（仮設 463、復興 1,212）



＜成果および自己評価＞

平成 30 年５月～平成 31 年３月まで、毎月１回『石巻復興きずな新聞』を発行し、約３週間かけて、市内の仮設住宅および市街地の復興公営住宅に配布を行ないました（計 11 回／5,000～6,000 部）。個別訪問、毎月約 150 世帯に直接アプローチを行なうことができ、年間を通して、のべ 1,500 世帯以上に直接のアプローチを行ないました。住民の孤立防止に一定の効果があったと考えます。

＊＊＊

平成３１年１月実施の読者アンケートより、ボランティアによる訪問の部分を抜粋して掲載します。

●読者アンケートで寄せられた声●

◎家に引きこもりがちの老人達の心の支えになって居ります。元気な高校生との会話も、おじいさんの楽しみでもある様です。何よりもお茶っこしながらの、和気あいあいの時間が持てることに感謝の心のありがとうです！

◎遠路はるばる来てくださるボランティアの方々には頭が下がります。短い時間でも会話できるのが楽しみです。感謝しております。手助けできないけど今後も続けること希望しています。

◎私達のために遠くから来て頂き大変な仕事だと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

◎いつもありがとう、元気で頑張って。よろしく。

◎お変わりなく元気ですか。毎月来る３人が明るく私の話を聞いてくれます。ご苦労様です。きずな新聞読ませてもらっています。私たちに耳を傾けて向き合ってくれてありがとうございます。

◎私達夫婦二人は、東日本震災であらゆる物を失いました。あまりの事に避難所で毎夜星空を眺め途方に暮れていた時から、皆さまからの支援により今に至って居ります。本当にありがとうございます。

◎淋しい時に学生のボランティアさんにつらい事やいやな事を聞いてもらい、今日は楽しい半日でした。誠にありがとうございました。

◎仮設住宅から復興住宅へ移転する際、気持ちが不安定な時に、私の実家の新潟の方から来たボランティアの人に出会ってほっとした。わざわざ遠くから足を運んでくれてとても感謝しています。ありがとうございました。これからも同じ様な思いの人の為に活動応援したいです。

◎復興きずな新聞スタッフの皆さま、全国数多くのボランティアの皆さまいつもありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。次回のお喋りを楽しみにお待ちしております。

◎全国の支援者の方、又、ボランティアの皆さんに感謝しております。

◎いつも暑い日から寒い日まで毎月ありがとうございます。いつもありがとうございます。

◎復興住宅へ引越してから１年３ケ月になりますが、復興住宅より仮設での生活が良かったように思います。室内での生活がほとんどです！さびしいですね。

◎被災者の笑顔に寄り添って、がんばって下さい。支援します。

◎8 年はすぎたとはいえ、まだまだ心の面や色々な面でてまっています。きずな新聞やボランティアの方々に本当に感謝致しております。

【3】市民ボランティアの育成

＜実施した事業内容＞

記事の執筆、新聞の印刷、仮設住宅への訪問・配布活動を地元の方々と共に行うことで、参加する人の「やりがい」を創出するほか、実際にその地域に住む人が新聞を配布することで地域支え合いの仕組みづくりに寄与する。

〇記事執筆：21 人（49 記事）
〇新聞印刷：７人（日別のべ 63 人）
〇新聞配布：35 人（日別のべ 261 人）
〇うち、常連ボランティア（月３日以上参加）：日別のべ 114 人
〇ボランティア向け研修：８回（傾聴２回、タッチコミュニケーション２回、伝承活動４回）

＜成果および自己評価＞

社会人だけでなく、60 歳を超えたシニア世代や主婦層など、社会との接点の少ない方々にもボランティア活動に携わっていただくことで、生きがい・やりがい・社会参画機会を創出できたと考えます。中には、仮設住宅への訪問活動を通して地域コミュニティ大切さに気付き、自分の地域の町内会活動を始めた方もいます。

＊＊＊

下記に、活動に参加する地元ボランティアから寄せられた声を掲載します。

●地元ボランティアの声●

◎住民の方から、「ありがとう、待ってたよ」の言葉が、ボランティアをしている理由になっています。

◎当たり前が有り難いと思えるようになりました。現状を知ることで、「きずな新聞はずっと続けて欲しい。続ける必要がある」と思いました。今後も月に一度程度になりますが、自分に出来ることから参加させていただきます。宜しくお願い致します。

◎きずな新聞舎の活動を通して「ボランティアは人生の中で常にしておくべきことの一つ」という認識を持つようになりました。

◎仮設きずな新聞は発行当初から、市販の新聞を取るお金がなく行政の情報など被災者に、必要な情報を沢山提供して下さいました。今、仮設住宅を出た自分が出来る事は感謝を込めてお世話になった新聞を復興住宅へお届けする事です。

◎住民さんと繋がれることがうれしい。

◎あれだけの大惨事が起こり、当時の様子を知る者として、被災された皆さまの心や生活面の復興には長い時間が必要であると感じている。それがボランティアを続ける理由になっています。

◎きずな新聞の活動に参加するようになり、「今でも、現地に足を運びボランティア活動を続ける仲間が沢山いる」「足を運べなくても全国各地からエールを贈り続ける心温かい方々が沢山いる」ということを知り、うれしかった。

◎ボランティアに参加する前は、石巻や被災地に関して何も知らなかった。知ったつもりでいた。ボランティアを経験して、色々な人の話を聞いて、同じ日本でこんなにも大変な思いをしていること、そして長年経っても、メンタル面はすぐには切り替えられないということを学んだ。そこで、新聞配布のボランティアという存在があることで、共に支え合い、立ち上がろうという元気をもらうことが出来ている。私は自分が支えるつもりというよりは、逆に元気をもらって帰ってくる。だから今後も続けて行きたい。共に復興して行きたい。

◎きずな新聞舎のボランティアに参加して、人の強さ弱さ、生きること、つながる大切さなど、改めていろいろ考えました。今は、あまり参加出来ませんが、私の出来ることをしていきたいと思っています。

◎高校生やベテランボランティアさんと一緒に活動させてもらったことで、忘れかけていたピュアな気持ちを思い出させてもらいました。そして、住民の方々の複雑な思い、逞しさなど、現場でしか知り得ない生のお声を聞くことで、きずな新聞が培って来たこと、そしてこれからも続ける大切さを身をもって体験出来ました。これからも月に一度ではありますが、参加させていただきます。

【4】県外ボランティアの受け入れ

＜実施した事業内容＞

　県外からのボランティアの受け入れ、活動コーディネート、およびプチ被災地スタディツアーを実施することにより、石巻への来訪を促し、「石巻応援団」をつくる。

◎県外ボランティアの活動コーディネート

回数：20 回

人数：193 人（日別のべ 476 人）

活動内容：石巻復興きずな新聞の配布ボランティア、記者ボランティア、仮設住宅や復興公営住宅でのサロン活動、イベント開催、追悼行事のお手伝いなど

リピーター：のべ 21 人

県外ボランティア受け入れに関わる地元ボランティア人数：47 人（のべ 176 人）

◎被災地スタディツアー

回数：12 回

人数：112 人

内容：街歩き（日和山、「がんばろう！石巻」看板など）、施設訪問（復興まちづくり情報交流館、石巻ニューゼなど）、震災映画鑑賞（東日本大震災 宮城・石巻沿岸部の記録、東日本大震災 あなたはあの日をどう伝えますか～宮城・石巻地方沿岸部３年間の記録～、石巻市立湊小学校避難所、Funakoshi）

◎ＳＮＳ、ＨＰ等での情報発信

投稿回数：145 回（FB…94 回、ブログ…51 回）

いいね！数：6,254 回（平均 67 回）

シェア数：473 回（平均５回）

リーチ数：106,863 人（平均 1,174 人／投稿）

＜成果および自己評価＞

◎県外ボランティアの活動コーディネート

昨年度から引き続き、「石巻復興きずな新聞」の発行・配布に関するボランティア活動に加え、市内で活動するさまざまな団体と連携して、サロン活動や仮設住宅・復興公営住宅でのイベントなどに関しても県外からボランティアの活動をコーディネートしました（具体的な活動内容は別紙参照）。仮設住宅や復興公営住宅を一軒一軒を回り、自治会や団地会の役員の方とも連携しながら活動を続けてきた私たちだからこそ、現場のニーズに応じた効果的な活動（内容、広報など）をコーディネートできたと考えています。また、担い手不足により効果的な活動が行なえなくなってしまっている団体と連携することで、新たな拡がりを作ることもできました。新聞の取材を通し、さまざまな支援団体とネットワークを築いてきた私たちだからこそ、受け入れ団体・ボランティア個人の双方にとってプラスのある活動をコーディネートすることができたと思います。

下記に、県外からボランティアに参加した方々からいただいた感想文を抜粋します。県外からのボランティアが被災地を訪れて何を見て、聴いて、感じたか、彼らの存在が住民の方々にどれだけ心の支えになっているかが分かります。

＊＊＊

◎被災地ツアーのコーディネート

ボランティア参加者に対し、ボランティア活動だけでなく、震災当時の様子や震災の教訓を体系的に学ぶ機会も提供しました。語り部プログラム「震災・学びの案内」を行なっている石巻観光ボランティア協会様によると、震災５年の節目を超えた平成 28 年度から、同プログラムへの参加希望者や問合せが激減しているといいます。また、東松島市で高校生による語り部のコーディネートを行なっている鈴木貴之氏によると、最近「自分の体験を人に伝えることで、震災の風化を防ぎたい。後世に教訓を伝えたい」という思いを持つ地元の方々は増えている一方で、その需要が減っているために「語り部が育たない」という現状があるとのことです。県外からのボランティア（来訪者）を対象に震災当時の様子や震災の教訓、復興への取組などを体系的に学ぶことの出来る「プチ・被災地スタディツアー」を行なうことで、ボランティアはより多角的に被災地の現状や課題を知ることができ、また語り部プログラムなどを実施する団体は持続可能性が高まったと考えます。

＊＊＊

◎SNS 等による情報発信

被災地の現状や課題をより多くの人に伝えるために、SNS やブログ等による情報発信にも力を入れました。「災害はどこにでも起き得るもので、決して他人事ではない」「震災から 7 年が経っても、こんな課題がある」ということを発信することで、多くの人の共感を得、SNS でも多くの反響につながりました。「いいね！」やシェアを獲得することで、リーチ数は各段に上がり、年間を通して 10 万人以上の方にリーチすることができました。

●県外からのボランティア参加者からの声●

〇被災地に貢献できるスキルもないので、せめてもと思い、これまで年 4 回くらい東北・被災地を旅行して、現地のお店でお金を使うようにしたり、行った先々で撮った写真を SNS であげたり、友達や家族に話したりしてきました。きずな新聞の活動に参加させていただいたことで、厳しい現実を目の当たりにし、自分の自己満足になっていないかと自己嫌悪するくらい悩んだりしながら、それでも寄り添い続けること、忘れないこと、学び続けること、できることがあればどんなに小さくてもためらわずやること、そういう思考を得ました。本当に多くの人に知ってほしいし、参加してほしいです。

〇新聞やテレビなどからは伝えきれない被災地の方の現状が、新聞を手渡ししてお話しさせていただく中で、お一人お一人から見えてきたり感じたりします。表向きには復興しているように見えていても、心の復興はまだまだだと感じます。離れた場所で暮らしながら、「あの方はあれからどこの復興住宅に移られたかな？お元気かな？」などよく考えます。一度無くしたコミュニティを再び築いていくには、相当の持続的なエネルギーが必要です。誰もがいつ同じような被災者になるかもしれない。自分にできる関わりをこれからも模索して継続中していきたいです。そして、東北で被災された方が口を揃えておっしゃる「こんな思いをするのは私たちだけで十分だ。どうか気をつけて」の思いを受け止めて、防災にも繋げていかなくては。新聞という名の手紙を、お一人お一人に届け続けてきた「石巻復興きずな新聞舎」の活動から学ぶこと、見えてくることはどれほどのものでしょうか。この活動が、これからも、形を変えても、多くの場で生かされていくことを願います。「また来たよ！」と、石巻で知り合えた人たちに、笑ってまた会いに行きたいです。

〇ボランティア活動を続ける理由は、きずな新聞の活動を通して「継続して石巻と関わることが重要だ」と考えたからです。初めてきずな新聞の活動に参加したのは震災から 7 年半が経ったころでした。それでもまだ仮設住宅にお住まいの方がいることや防潮堤が建設途中であることや復興公営住宅が建てられている途中であることを知ってとても驚きました。仮設住宅から復興公営住宅や自力再建のお家に引越しできた方々が抱える問題もあることを知り、住まいが安定したからと言って復興したと言い切れるわけではないと感じました。きずな新聞のような活動があると、直接住民さんと交流することによって、公営住宅に引越してきた方の抱えるコミュニティに関する問題などの理解を深め、住民さん同士のコミュニティを促進する「お茶っこ」のような活動を行うことができます。それは何度も戸別訪問を繰り返し、見えてきたことであり、継続して関わらなければわからないことだと思います。私自身何度も戸別訪問を行い、住民さんやボランティアさんと交流するなかで、仮設住宅の抱える問題や復興公営住宅の抱える問題や高齢の一人暮らしの方の抱える問題などに直接触れ、考える機会をいただきました。また活動の中で、復興とは何か・これから先石巻とどのように関わっていくのか・災害があった時にどうすれば良いのか等について深く考える機会にもなりました。石巻のことを深く知り、理解するためには何度も継続してボランティアを行うことが重要だと考えます。そのため、行ける時にはボランティアに参加するようにしています。

〇他の人にも参加してほしいなと思ったのと、東京でも知られていないことが多いのでいろんな人に知ってもらってほしいなと思っている。

〇様々な被災地でボランティア活動をしていますが、きずな新聞での活動は被災された方に対してだけ

でなく、ボランティアに対しても非常に丁寧に関わっておられることが素晴らしいと思いました（活動前の丁寧なオリエンテーション、熟慮された活動内容）。遠く頻繁に伺える距離ではないのが残念ですが、必ずまた繰り返しお手伝いに伺いたいと思える団体さんです。今後もそのような団体であって欲しいと思います。

〇きずな新聞での活動がきっかけで、関わる人の幅が広がった。加えて、実際に石巻へ足を運ぶことで、震災に対する理解が深まった。また、「誰かの為に」という気持ちを持つだけでなく、手紙を書くなどして、気持ちを行動に移すことが多くなったように感じる。

〇きずな新聞の活動をしてみて、いかに人々がこのきずな新聞を楽しみにし、生活の活力にしているのかを知りました。また参加して貢献していきたいと思います。

〇東北地方の方々の温かさや優しさに触れることが出来ました。きずな新聞でのボランティアでは傾聴することを大切にしていると思います。毎日の仕事でも傾聴をしているのですが、傾聴をするということは難しいです。人としっかり向き合って耳も心も全て傾けることをまた学ぶことが出来たように思います。そして地元に戻ったら東北がこんなに元気になっていること、また住民さんから周りの大切な人に伝えなさいよと言ってもらった話していただいた震災の経験の話を周りの人に伝えることを継続していきたいです。

〇時の流れとともに震災の記憶が人々の記憶から薄れていくのを感じます。震災を経験したものとして、機会があるごとに伝えていくことを続けています。街並みが綺麗になり表面的には復興しているように見えますが、震災の後遺症はまだまだ深く、特にメンタル面、健康面では多くの人達が支えを必要としています。私自身も帰郷していて、偶然 3.11 で被災しました。その後 2 年半ほど石巻に通いボランティア活動を続けてきました。ボランティアする側にも、精神的にも肉体的にも、金銭的にも大きな負担がかかります。継続する事は並大抵の事ではありません。今こうして再び寄稿することで、僅かでも石巻の方々に寄り添う事をさせていただき感謝しております。この活動を石巻にいる方々が引き継いで末永く続いて行くことを望みます。

〇石巻へ行くようになり、3.11 に参加するようになりました。縁が縁を繋げてくれたと思います。これからも、縁を大切にして行きます。おのくんの東松島にも通い始めました。さらに、南三陸にも縁ができました。きずな新聞から始まっています。あきさんの記事、読みやすくわかりやすく、好きです。情報もあてにしています。実働することの大切さを教わりました。応援って、目に見えにくい。それもよくわかりました。感謝しています。

〇きずな新聞のスタッフの方々の、住民さん一人ひとりに真摯に向き合う姿勢に胸を打たれた。

〇仮設きずな新聞の時代から、配布ボランティアをやらせてもらっています。このボランティアを通じて、人と人とをつなぎ、つながった人が共通の話題で盛り上がったり、共通の趣味で行動するようになったら、年をとっても元気な人が増えると思います。今、少子高齢化社会で高齢者が増えることを問題と捉えているかもしれませんが、やはり介護保険のお世話になるよりも前の段階で、お元気でいてもらうには、やはり新しい人と会って刺激を受け、新しいことに興味を持つといったことがとても有効だと思います。これは、何も社会的にお金がかからないようになるということ以上に、ご本人にとっても、本当に生

きがいのある充実した人生を送ることができると思いました。私は平時の時に、自分の地元でも同じような活動が行われたらいいなぁと思いましたが、今、実際にあちらこちらで、町内会主催だけでなく、個人的な主催のサロン活動が始まっています。石巻での経験を多くの人に伝え、サロン活動というのは、暇な人が集まってしゃべっているとか、遊んでいるということではなく、人間が元気で健康で充実感を持って生きていくのに必要なことだと広めていきたいと思います。

〇きっかけはともかく、被災者と接する事で少しでも力になりたいと思いました。微力ですが、「ありがとう」と言って頂けると少しは役にたてているのかなと思っています。被災された方々はまだまだ大変な思いをしていますし、心の痛みが消える事は無いと思います。少しでも役にたてるなら続けたいと思います。被災者とボランティアを繋ぐという意味で、きずな新聞はとても有意義な活動だと思います。

【5】仮設住宅、復興公営住宅でのサロン活動、イベント開催

＜実施した事業内容＞

仮設住宅の集約拠点団地、復興公営住宅の集会所を活用したサロン活動やイベントを開催し、住民の孤立防止やコミュニティ形成に取り組む。

◎サロン＆イベント開催

〇回数：21回

〇人数：のべ 309 人

〇内容：お茶っこ、大道芸、マッサージ講座、整体、アロマハンドマッサージ、ダンス体操

〇対象：仮設住宅、復興公営住宅および近隣地域の住民

＜成果および自己評価＞

復興公営住宅の集会所を活用したサロン活動やイベントを開催し、住民の孤立防止やコミュニティ形成に取り組みました。担い手として、コアに活動に関わることのできる「有償ボランティア」を 2 名採用し、ボランティアのコーディネートを行なうことで、ボランティアの「質」の向上を実現できました。また「（ボランティアさんがいるから）お茶っこする」ではなく、住民さん達自身でコミュニティ形成の場づくりができる状態を目指して、団地の課題やニーズに合わせて柔軟に活動してきました。

サロン活動に定期的に参加している方向けのアンケートでは、約９割の方が「他人との交流が増えた」「孤立感（さびしさ）や不安感が軽減された」、約８割の方が「生きがいのある前向きな生活を送れるようになった」「心身の健康改善につながった」と回答してくださり、孤立防止やコミュニティ形成に大きな効果があったと考えます。

●住民さんからの声●　※アンケートより抜粋

〇まだまだ心の復興には時間がかかるようです。普通にしているように見えますが、慣れない団地暮らしや人間関係で心の奥では葛藤があると思います。ボランティアさん等の慰問に来ていただくのはすごくありがたいですし、皆さん楽しみにしています。だんだん忘れられて行く不安感もありますし、これからも大変でしょうけど、来て頂いて是非心のふれ合いをお願いいたします。

〇気持ちをプラスに持ち、生活に生きがいを見出して暮らしたいと思います。役員の人達が皆さん私たちの事を考えて行事も考えてくれておりますので、感謝しております(老人の未知の不安は免れませんね)。

〇皆さまと交流出来て嬉しく思います。続けてくださいお願いします。

＊＊＊＊＊＊＊

会計報告

＊＊＊＊＊＊＊

●収入の部

科目	摘要	2018年度
前年度繰越金		2,345,584
寄付金	寄付金	1,460,772
助成金	みやぎ地域復興助成金、宮城県心の復興助成金	5,000,000
活動協力金	ボランティア参加者からの活動協力金、広告協賛金	426,000
会費	賛助会員会費	461,000
雑収入	受取利子、原子力立地給付金など	4,908
当期収入合計		7,352,680
収入合計		9,698,264

●支出の部

科目	摘要	2018年度
人件費	スタッフ人件費、有償ボランティア謝金、預り金所得税	4,509,976
旅費交通費	活動時のレンタカー代、ガソリン代、地元ボランティアの交通費補助、県外リピーターボランティアへの交通費補助、スタッフ交通費	1,001,746
印刷製本費	新聞印刷、チラシ印刷、パンフレット印刷など	74,619
賃借料	事務所家賃、引落手数料、レンタルサーバー代	547,088
水道光熱費	事務所水道光熱費、トイレ汲み取り代、灯油代	157,821
保険料	ボランティア保険	7,200
会議費	地元ボランティアのお弁当代、ボランティアMTG	22,423
通信運搬費	携帯電話、インターネット、郵送費など	147,376
消耗品費	事務用品費、サロン活動の茶菓代、拠点維持にかかる物品購入費など	274,254
設備費	中古PC購入	7,980
支払手数料	振込手数料	2,981
交際費	お祝いなど	3,998
広告宣伝費	グッドデザイン賞パネル作成、バザーコーナー販売物仕入れなど	73,261
図書資料費	書籍購入費	994
雑費	活動コーディネート費用	10,000
支出合計		6,841,717

●収支

		2018年度
収入合計		9,698,264
支出合計		6,841,717
収支		2,856,547

（単位：円）

●受賞●

これまでの継続した活動が認められ、2018 年度グッドデザイン賞（公益財団法人日本デザイン振興会）、および第 51 回社会貢献者表彰（公益財団法人社会貢献者支援団体）を受賞いたしました。これまで活動を支えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。

＜2018 年度グッドデザイン賞＞

2018 年 10 月 31 日、グランドハイアット東京にて、受賞祝賀会が執り行われました。

＜第 51 回社会貢献者表彰＞

2018 年 11 月 26 日、帝国ホテル東京にて、表彰式典および祝賀会が執り行われました。

●メディアでの紹介●

◇4/17TBC ラジオ「ロジャー大葉のラジオな気分」出演
◇4/23TBC ラジオ「3.11 みやぎホットライン」出演
◇7/11 宮城県「復興情報発信プロジェクト NOW　IS. Vol.27」掲載
◇7/17 みやぎ復興ポータルサイト「最後のひとりが仮設住宅を出るまで続けたい。石巻復興きずな新聞舎」掲載
◇8/3 山陽新聞「倉敷・真備の避難所で壁新聞製作　石巻の復興新聞編集長の岩元さん」
◇9/9 南海放送ラジオ「ニュースな時間」内『愛媛からつながレター』出演
◇10/29 ミヤギテレビ「OH!バンデス」内『がんばろう！宮城』出演
◇11/6 河北新報「石巻復興きずな新聞７年　被災者と共にこれからも　手渡し配達で見守り」
◇11/6 マイナビニュース「 連載：なぜ、人のために働くんですか」内『第６回 被災地で新聞を作る、岩元さんの想い』掲載
◇11/20J-WAVE「JAM THE WORLD」内『HEART TO HEART～WE ARE ONE～私達と被災地の”いま”をつなぐ』出演
◇11/29 新潟県民エフエム FM PORT「MORNING GATE」内『災害復興支援情報』出演
◇12/20 ミヤギテレビ「ミヤギ news every.」出演
◇2/8 読売新聞「『きずな新聞』復興貢献評価　グッドデザイン賞に『石巻支援息長く』」掲載
◇2/16 仙台放送「東日本大震災　特別企画『ともに』」出演
◇3/5 雑誌「ソトコト」2019 年４月号『ソトボラ新聞』掲載
◇3/11TBS NEWS「被災者を見守る新聞」出演

●講演など●

◇7/10 早稲田大学前期講座「3.11」の「心のケア」の回にゲスト講師として登壇（於：早稲田大学）
◇8/23 浦和学院高校国際類型コース・サマースクールにて、授業「災害ボランティアの活動の変遷と現在の石巻の課題」（主催：浦和学院高校／於：石巻専修大学 4102 教室）
◇8/30「みやぎ若者応援プロジェクト インターンシッププロジェクト」にて、講演「東日本大震災から７年半～石巻での支援活動の現場から、災害後の課題と解決アプローチを考える」（主催：認定 NPO 法人 Switch／於：仙台 Switch）
◇12/14「IRORI ゼミ Vol.3 日頃の意識を少しだけ変えたい！」に登壇（主催：Ishinomaki2.0、於：IRORI）
◇2/28 トークイベント「ソーシャル・アントレプレナー～社会的弱者に寄り添う新しいイノベーションのかたち～」登壇（主催：大阪大学大学院／於：billage OSAKA）
◇3/9 東日本大震災復興支援イベント「第７回 心ひとつに 3.11 大府」にて講演（主催：3.11 を忘れない実行委員会／於：大府市民活動センター「コラビア」）

●ご協力・ご支援いただいた企業・団体●

個人の方々からもたくさんのご支援・ご協力をいただきました。個人情報の観点からお名前のご紹介は控えさせていただきますが、お一人おひとりの皆様に心より感謝申し上げます。

石巻専修大学関根ゼミ／ユースサポートカレッジ・石巻 NOTE／石巻・川の上プロジェクト／一般社団法人サードステージ／一般社団法人震災こころのケア・ネットワークみやぎ／石巻市包括ケアセンター／一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター／一般社団法人ゆいいきる／株式会社街づくりまんぼう／Ishinomaki2.0／仙台 Switch／民宿めぐろ／浦和学院高校／武蔵野大学／あつまり処わのや／asaco caco／マジカルパフォーマータップリン／3.11 を忘れない実行委員会／おらほの家プロジェクト／石巻復興まちづくり情報交流館／石巻 NEWSEE／日和山体操の皆さん／一般社団法人カーシェアリング協会／アディエント合同会社／アロマで癒し隊／さくらさくライブ実行委員会／株式会社ヤマテック／ダッシュ隊徳島／株式会社木の屋石巻水産／ギャラリー安里／東北支援グループ本山／ギャラリー 366／366 サロン／大阪 CEP（順不同・敬称略）

・・・・・・・・・・・・・・・

活動資金へのご協力のお願い

・・・・・・・・・・・・・・・

私たちの活動は、皆さまからのご寄付で賄われています。
温かいご支援、どうぞよろしくお願いいたします。

ゆうちょ銀行	818 店　普 3864748	石巻復興きずな新聞舎
郵便振替	02220-0-141408	石巻復興きずな新聞舎

＊＊＊＊＊＊＊＊＊

賛助会員募集

＊＊＊＊＊＊＊＊＊

石巻復興きずな新聞舎の活動を積極的にご支援いただける個人・企業・団体を募集しています。
会員の皆様からいただく会費は、団体運営の基盤となります。
ぜひご協力をお願いいたします。

■個人会員（購読あり）	5,000 円／年×１口以上
■個人会員（購読なし）	3,000 円／年×１口以上
■団体会員	10,000 円／年×１口以上

石巻復興きずな新聞舎

〒986-0813　宮城県石巻市駅前北通り 1-5-3

Tel 090-6686-8317／Fax 050-3488-1702